



令和6年5月16日

担当課	文化振興課(博物館)
担当者	前田・富永
電話	073-423-0003

## 和歌山市立博物館企画展「和歌山城を掘る」を開催します！

和歌山城は国指定文化財（史跡）で、これまで史跡整備や石垣整備などの目的で、和歌山城内各所で発掘調査を実施しています。

藩主の生活の場である二の丸の大奥周辺では、徳川時代の池や排水施設、井戸のほか、絵図に記録されていた石組池などが実際に発掘され、江戸時代の建物配置を復元するうえで重要な成果をあげています。また、藩主の趣味的な場所である西の丸と、大奥を繋ぐ御橋廊下は発掘資料・絵画資料などを総合的に分析し、復元整備を行っています。



三葉葵紋鬼瓦（二の丸西部出土）

西の丸では、御庭焼の窯や未成品・失敗作が多数出土しており、器に押された印から、第11代藩主の徳川斉順（とくがわなりゆき）の作陶趣味の実態を示す資料として大変注目されます。これまでの調査で見つかった徳川家に由来する三葉葵紋鬼瓦や御庭焼、徳川家以前の城主である浅野家の家紋の入った滴水瓦など、お城の歴史や文化を示す資料を多数展示します。

- 展覧会名称 企画展「和歌山城を掘る」
- 会 期 令和6年5月21日（火）～令和6年6月16日（日）  
休館日：月曜日
- 開館時間 9時～17時（ただし入館は16時30分まで）
- 入館料 一般：100円 高校生以下：無料  
※和歌山市が発行する老人優待利用券をお持ちの方は、本人のみ無料  
※団体（20人以上）は2割引
- 会 場 和歌山市立博物館 2階特別展示室  
〒640-8222 和歌山市湊本町3-2 TEL：073-423-0003  
FAX：073-432-9040
- 関連イベント
  - ・展示解説 6月1日（土）、6月15日（土）  
いずれも午後1時30分～午後2時30分
  - ・土器に触れてみよう 6月2日（日）  
午後1時30分～午後3時30分  
博物館玄関ホールにて開催（参加費無料）。時間内参加自由。  
弥生土器、須恵器、瓦器、磁器など、いろいろな時代の土器に実際に触れてみて、時代ごとの特徴をしる。

主な展示資料は別紙のとおり

## 主な展示資料

### 歴代城主の家紋瓦

#### ① 桔梗紋軒丸瓦 (天守郭北側斜面出土)

1585年(天正13年)、紀州を平定した羽柴秀吉は、弟の秀長に命じて和歌山城を創建させた。山上から山裾に分布する結晶片岩の石材を野面積みする石垣が創建時の姿を伝えていると考えられている。

秀長の家臣・桑山重晴が城代をつとめ、秀長家が途絶えると桑山氏が城主となった。桑山氏の家紋であるキキョウの花をあしらった桔梗紋軒丸瓦は、城内では採集資料も含めて数点知られるのみである。築城頃の天守郭周辺の建物に葺かれていたと推定される重要資料である。



#### ② 違鷹羽紋滴水瓦 (御勘定御門櫓台出土)

1600年(慶長5年)、関ヶ原の戦いで徳川家康に味方した浅野幸長は、紀伊国37万5千石を拝領した。以降、浅野氏は1619年(元和5年)に、安芸国(現在の広島県の一部)に転封されるまで、約20年間、和歌山城の城主をつとめた。鷹の羽を交差させる違鷹羽紋は浅野氏の家紋である。正面が逆三角形の滴水瓦(中央から水が滴り落ちるような瓦)は、元は朝鮮半島の瓦の特徴であるが、秀吉による朝鮮出兵(文禄の役=1592年・慶長の役=1597年。浅野幸長も参加)後、日本国内に広まった。浅野時代には、大規模な城の改修工事と城下町の整備が進められたとみられる。



#### ③ 三葉葵紋鬼瓦 (二の丸西部出土)

1619年(元和5年)、徳川家康の十男である徳川頼宣が5万5千石で紀州入りし、和歌山城は江戸時代末まで紀州徳川家の居城となった。頼宣は、堀の一部を埋め立て、二の丸を西方に拡張し、二の丸が徳川期の政治・生活の拠点とするなどの整備を行った。

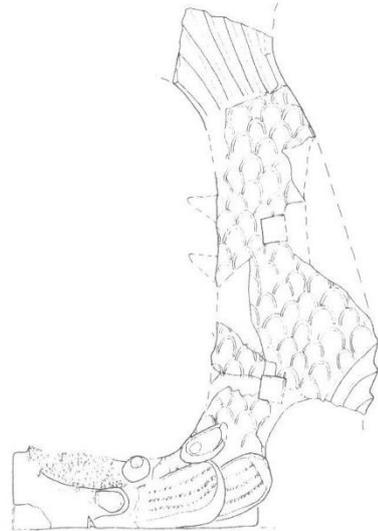
徳川家の家紋である三葉葵をあしらった鬼瓦で、城内各所で出土するが、整備に伴う発掘調査が実施された二の丸西部の大奥周辺で多数出土している。鬼瓦をもつ大形建物が存在していたことが想定される。



## 和歌山城内で唯一全体像のわかる鯨瓦<sup>しやちがわら</sup>

### ○鯨瓦<sup>しやちがわら</sup>（御勘定御門<sup>おんかんじょう</sup>櫓台<sup>ごもんやぐらだい</sup>出土）

鯨瓦は大きな屋根の両端につけられる想像上の魚形の飾りで、建物を火災から守るためにつけられたとみられる。西の丸西側の御勘定御門の櫓台<sup>おんかんじょうごもんやぐらだい</sup>で出土した。破損しているが、目・耳などが付く頭部、うろこの表現された体部、扇形に広がる尾<sup>おびれ</sup>とつながり、全体像が判明するものとしては城内で唯一であり貴重な例である。同じ調査場所から、浅野家の家紋瓦である<sup>ちがいたかの</sup>違鷹<sup>は</sup>羽紋滴水瓦<sup>もんてきすいがわら</sup>が多く出土することから、浅野期（1600～1619）の鯨瓦とみられる。



## 11代藩主徳川齊順<sup>なりゆき さくとう</sup>の作陶趣味

### ○御庭焼<sup>おにわやき</sup>（清寧軒<sup>せいねいけん</sup>焼）（西の丸跡出土）

御庭焼とは、藩主などが城内や別邸内に窯<sup>べつてい</sup>を設けて、趣味で焼物を行ったもので、紀州藩では10代藩主徳川治宝<sup>はるとみ</sup>による<sup>かいらくえんやき</sup>偕楽園焼、11代藩主徳川齊順<sup>なりゆき</sup>による<sup>せいねいけんやき</sup>清寧軒焼が有名で伝世品も多くあり、江戸時代の文化芸術の姿を示す資料でもある。

西の丸跡で出土した御庭焼資料には、失敗作や制作途中の資料が多く、小さな窯自体も発見されている。西の丸が能<sup>のう</sup>を<sup>み</sup>観たり茶道を楽しむ空間であったことと合致する。器には「清寧<sup>せいねい</sup>」印<sup>お</sup>が捺されており（右下写真）、11代藩主の徳川齊順<sup>なりゆき</sup>に関する御庭焼資料と判明し、清寧軒焼の実態を考える上で重要な資料群となる。赤楽茶碗<sup>あからくちやわん</sup>、黒楽茶碗<sup>くろらくちやわん</sup>、水指<sup>みずさし</sup>、蓋置<sup>ふたおき</sup>、鬼板<sup>おにいたし</sup>状の飾りなどがあり、多くは茶道に関するものである。



# 和歌山城を掘る

5.21 (火) → 6.16 (日)



西の丸跡 発掘調査風景



御庭焼 赤染茶碗 (清翠印)

三葉菱紋瓦 (紀州徳川家)

御庭焼 黒染茶碗

御庭焼 鬼板状製品

宝篋印塔

桔梗紋軒丸瓦 (桑山家)

遠震羽紋滴水瓦 (淺野家)

石仏

展示協力：(公財)和歌山市文化スポーツ振興財団

## 展示解説

6/1 (土)、6/15 (土) (申し込み不要)  
13時30分～14時30分

## 関連イベント

### 土器に触れてみよう

(申し込み不要。玄関ホールでのみの参加無料)

6/2 (日) 13時30分～15時30分

玄関ホールにて開催。時間内参加自由。  
弥生土器、須恵器、瓦器、磁器など、  
いろいろな時代の土器に触れてみよう。

国指定文化財(史跡)である和歌山城内では、史跡整備や石垣修理などに伴い、二の丸・西の丸・御橋廊下・勘定御門など城内各所で発掘調査が実施されています。これまで発見された資料から、和歌山城の歴史・文化を紹介します。

## 和歌山市立博物館

住 所:和歌山市湊本町3-2

時 間:9時～17時(入館は16時半まで)

休館日:月曜日

入館料:一般・大学生100円 高校生以下無料

※和歌山市が発行する老人優待利用券をお持ちの方は、本人のみ無料。

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、およびその介護人は無料。



南海・JR和歌山市駅から徒歩5分